

折に触れ 四字熟語

NO. 65 『飛雪千里』 ひせつ せんり

< 意味 > 吹雪の激しいことの形容。

「飛雪」は雪が風に乗って飛ぶこと。「千里」は遠くの意。雪が風によって、千里の彼方へ飛ばされること。

< 出典 > 『楚辞』 「招魂」

招魂

宋玉

第二段

・・・

魂兮歸來 北方不可以止

魂よ歸り來れ、北方は以て止まる可からず。

増冰峨峨 飛雪千里些

増冰は峨峨として 飛雪は千里なり。

歸來兮 不可以久些

歸り來れ、以て久しくす可からず。

・・・

通 積： 魂よ歸りなさい。北方は止まっていることができない。重なる氷はけわしく聳え、飛び散る雪は千里の遠くまで吹いていく。歸りなさい。久しく留まっていることはできない。

語 積： 「些」は助字。出典に、四川や湖南・広東に住む獠人がまじないの句末に些と称するのは楚人の旧俗であろう、と書いてあります。

一 言： 雪シリーズその1

「楚辞」は中国の戦国時代以前に、楚の地に発生した韻文、巫の神前のことばが原形であったといえます。有名な「四面楚歌」の歌も楚辞の一種と考えられています。この「招魂」は屈原（中国戦国時代の楚の政治家、詩人）のことを歌った詩です。

1月22日都内は大雪に見舞われました。夜になって風も強くなり、横殴りの雪はまさしく飛雪という表現がぴったりの状況でした。

参照文献： 明治書院・新釈漢文大系「楚辞」 自由国民社「中国の古典名著・総解説」
三省堂「四字熟語辞典」